地域から市政変えよう

港区地域懇談会　市区長ら交え意見交換

「地域から市政を変えよう」と十月九日、港区民センターで「いっしょにやりまひょ！港区地域懇談会」が催されました。区役所の呼びかけで多数が参加。平松市長や田端区長を交え、まちづくりにおける地域と行政の連携のあり方などについて意見を交わしました。

港区のまちづくりについての意見が交わされた「港区地域懇談会」（写真上は平松市長と田端区長、下はパネリストの武智、志幸、角の各氏＝左から）

パネルディスカッションでは武智虎義さん（港区地域振興会会長）が二十七年いっぱいでの中学校改革の経験を例に、「住民の意識が変われば地域が変わる」と強調。志幸万里子さん（南市岡小学校区はぐくみネットコーディネーター）は「皆で地域の子供を守ろう」と活動してきた八年余の経験を土台に「形に拘らず地域に合った運営を」と提言。角正基さん（港区商店会連盟会長）は「規制緩和による地域商業の危機」を訴え「商売人と地域の連携」「地域密着型商法への支援」に期待を表明しました。

◆地域主権のモデルに

会場からは「市民協働というが行政からの押しつけではないか『まちづくりに関心ある人が少ない』『市財政にはまだ無駄が多い』等の意見があり、これに対して市長は「上から下ろすというのではなく市民の動きを支援できる職員を育てたい『ボランティアビューローの案内を強めるなど活動への敷居を低くしたい『五年間で八九六一億円の経費を削減したが、更に効率的に職員を配置してサービスを向上させたい」などと答弁。「港区はまちづくりに前向きな地域。地方主権のモデルに」と結びました。

熱心に耳を傾けていた豊原美子さん（五七）（池島）は「色々な意見が参考になりましたが、昔商売をしていたので角さんのお話が心に残りました。市長と知事の論争は地域のプラスになる方向でやって頂ければ」と話していました。

催しガイド

■自閉症児を応援する気エネルギーワーク　プロの気エネルギー療法士が「自閉症児の体や心が少しでも楽になれば」と始めた。「気楽な参加」を呼びかけ。参加費無料。要予約。毎月第二・第四土曜十五～十八時に松井整骨院内で。弁天四―一〇―二六、☎六五七二―一一六五。

■みなと消防フェスタ　はしご車の搭乗体験、起振車で地震体験＝写真、スモークハウスで煙中体験、バッテリー消防車で走行体験、児童用マットで障害物突破訓練、ミニ消防車で写真撮影など盛り沢山。十一月二十日（土）十～十六時、交通科学博物館（JR弁天町駅すぐ）で。入場無料。雨天時は内容変更もあり。混雑が予想されるので体験コーナー一部は十時から整理券配布（枚数限定）。☎六五七三―〇一一九港消防署。

■みなとこころの講座　心を癒す音楽と絵と話でホッとするひとときを―と毎年開催のイベント。内容は①namaste（濱口なつこ&まさし）によるエレクトーンと三線・ギターのコラボレーション②西友子さん（大阪樟蔭女子大学心理学部講師）が「こころの天気予報～こころの不調に備える」と題して講義③障害者アーティストによる絵画を鑑賞④飲物・菓子サービス。十二月四日（土）十三時半～十六時、港区民センター二階松竹の間で。受講費無料。定員六十名。対象は市内在住・在勤・在学者。申込〆切十二月二日。申込方法など詳細は☎六五七五―一二一二港区社会福祉協議会（担当吉田）まで。

■池島ふれあいまつり　地域の誰もがふれあい交流できる住民手づくりの健全な文化の場として開催される恒例イベント。三十回目。入場無料。①ふれあいステージ（歌・演奏・踊り等）②ふれあい広場（ミニSL・トランポリン・縁日等）③いこいの広場（健康相談・折り紙・わらぞうり作り等）④ふれあいキッズ（紙芝居・お話等）⑤模擬店・バザー⑥抽選―など楽しい企画一杯。十一月二十三日（火祝）十～十五時半、池島公園で（雨天時は一部を港中で）。池島地区社会福祉協議会と海の子学園池島寮が主催。☎六五七一―〇二〇〇海の子学園池島寮。

■タイのエイズの子供たちへの支援チャリティ「ウォーキング教室（スリムをつくる歩き方）」　山形県の山下文博さんによるタイのエイズの子供たちへの癒し施術を支援し、日本気道術学会が主催。十月は「ウエスト周りを減らす」をテーマに正しい歩き方を伝授、「揺れる癖が治った」などと好評だった＝写真。第二十九回は十一月十七日（水）十時半～十二時に港区民センター（弁天二―一―五）二階「橘」で。テーマは「呆け防止に役立つ立ち方・歩き方とヒップアップ」。紹介付きスニーカー持参。支援金一口五百円（お志）。☎〇八〇―一四〇四―四三九「快生堂」堀川。

読者コーナー

読者の皆さんの投稿を歓迎します。内容は自由ですが、掲載・不掲載の決定や文章上の調整は本紙で行ないます。匿名でもかまいませんが、内容確認などのため、必ず本紙と連絡がとれるようお願いします。手紙かハガキかファクスで送って下さい。

立ち上がれ、高齢者！力合わせ元気な日本を

（市岡元町・馬場由美子）

「ある万引き老人の叫び」（前々号1面）を読みました。初めは「それは違うんじゃないの」と感じましたが、その行為（万引き）があったからこそ私も記事に目を留め、考えることができました。私は高齢者との接点が少なく、バスで席を勧める、話しかけられたらお話する程度で、関心はあっても具体的にどんなアクションを起こせば良いのか分かりませんでした。今、高齢者が何をどう感じておられるのか、もっと接点があれば、嫌な事だけでなく良い事も聞けるはず。そのために私たち自身がもっと考え行動すべきだと思いました。同時に高齢者の方々も、その美しく年輪を重ねられた知恵やお体をもっともっと使い、〝自分たちの思い〟をどんどん社会に発信して頂きたいと感じました。立ち上がれ、高齢者！です。もちろん高齢者だけではしんどいこともおありでしょう。そんな時はどん若年者に助けを要求して下さい。今があるのは皆様のお陰なので、当たり前です。日本人は奥ゆかしい方が多いようですが、これからは〝あつかましい〟高齢者になって下さい。そしてどうぞ若者や子供に〝おせっかい〟して下さい。淋しい若者や子供も多いはず。同じ国に生きる先輩・後輩です。共により良い、正しく美しい、元気な日本を造っていきましょう。「三人寄れば文殊の知恵」と古人も教えています。一人ではなく複数で「高齢者を尊敬する会」なんて結成してはいかがでしょう。〈47歳シングルマザー、子供3人〉

……

万引きよりも善行で手本になる高齢者に

（元商品販売責任者）

「ある万引き老人の叫び」（前々号1面）を読んで。この方は、年寄りだからレジでごまかされると感じておられるようですが、実際、レジの打ち間違いや釣り銭の受け渡しミス等の事故は、多い所では毎日数十件あります。私の場合、防止策を徹底させましたが、それでも一日数件は打ちミスがありました。商品販売の責任者を経験した者として、これは恐らくミスによるものだと思います。確かに今の社会はおっしゃる通り殺伐とし、虚しさを感じることも多いですが、そういう社会を譲り渡したのも今のお年寄り達―ということもできます。若者たちもそういう社会の中で悩んでいます。お年寄りを馬鹿にしている者などごく一部で、かといって尊敬している者も少ないのが現状です。ただ、若者はお年寄りを見ていないようで、「じっと」見ています。何回万引きを繰り返そうと、皆で笑われておしまいです。知恵も力もなくなったと言われますが、道に落ちているゴミを一日一つ拾うだけでもいいんです。それを見た若者が「さすがだな」と思える凛々しいおじいちゃん、おばあちゃんでいて下さい。それが私たち若者の手本になり、生きる希望になります。

読者の作品から辻悦子さん（市岡元町3）の絵手紙

……

よりよい介護保険へ現場の生の声役立つ

（磯路2・女性）

「介護保険10年　現場は今」（前号1面）を読んで。介護保険制度の現実は「変だな」と思われることがいくつもあるのですね。少しでもよりよい制度になるよう、現場で働く人の声が役立てばいいのにと思いました。国も制度を作って終わり、というふうに考えないでほしいです。議員の人にも言いたいです。選挙の時だけペコペコするのではなく、人々の声や希望を国に伝えて下さい。

……

敵味方越えた人の情心温まった戦争体験

（磯路2・80歳女性）

山田勝彦さんの戦争体験（前号まで8面に三回連載）を読んで。敵・味方を越えた人の情（最終回）に感動し、心からの拍手を送りたいと思いました。私は旧満州生まれの引き揚げ者で、今八十歳です。様々なことを見、経験しましたが、中国人に対して父親の示した情が思い起こされ、軍の残虐さを伝える話（特に開拓民を遺棄したこと）が多い中で、心温まるお話でした。